

# 小平市男女共同参画推進に関する市民意識調査 報告書 【概要版】

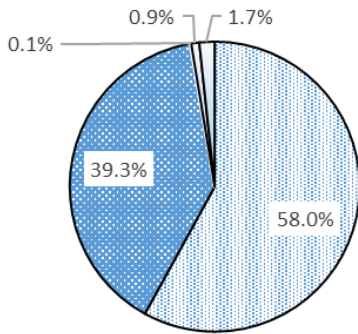
## I 調査の概要

「小平市男女共同参画推進に関する市民意識・事業所実態調査」は、「(仮称)第四次小平市男女共同参画推進計画(小平アクティブプラン21)」の策定にあたり、市民の皆様の男女共同参画推進に関する意識や実態を把握し、今後の施策に反映することを目的として実施しました。本概要版は「小平市男女共同参画推進に関する市民意識・事業所実態調査報告書」の市民意識調査にかかる部分を要約及び補足したものです。(※ページは報告書本文に対応しています。)

■調査の設計	■調査の内容
○調査対象 18歳以上の市民より無作為抽出	○回答者の属性
○標本数 2,000人	○男女共同参画意識について
○調査方法 郵送配布・郵送回収	○家事・育児・介護について
○調査期間 令和2年9月7日～9月28日	○地域活動・防災について
○有効回収率 40.7%(811件/1,995件)	○仕事について
	○ワーク・ライフ・バランスについて
	○教育について
	○人権について
	○女性活躍推進について
	○小平市の男女共同参画に関する施策について

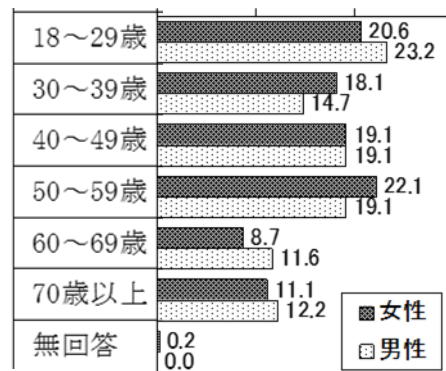
## II 回答者の属性

### ●性別 (P.4)



女性の回答割合が高く、関心の高さがうかがえる。

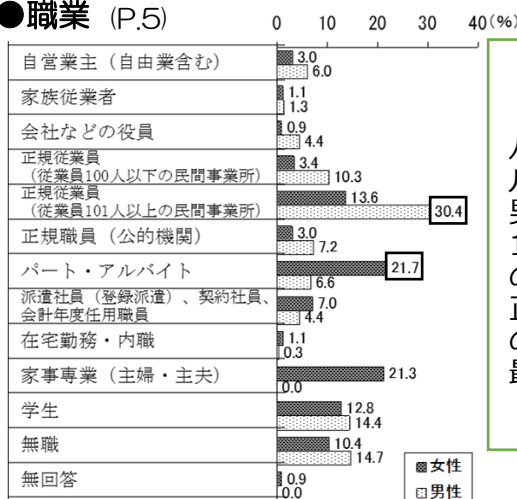
### ●年齢 (P.5)



女性では50歳代、29歳以下、40歳代、男性では29歳以下、40歳代・50歳代、の順に回答割合が高い。

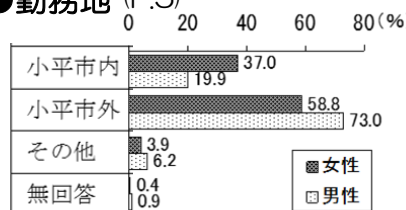
■女性 ■男性 ■その他 □回答したくない □無回答

### ●職業 (P.5)



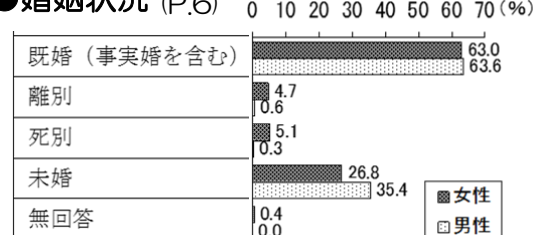
女性ではパート・アルバイト、男性では101人以上の事業所の正規従業員の回答者が最も多い。

### ●勤務地 (P.5)



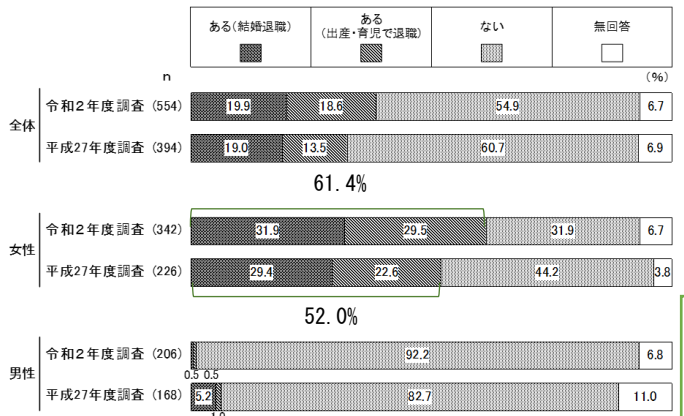
性別にかかわらず、小平市外を勤務地としている人が多く、全体では6割程度となっている。

### ●婚姻状況 (P.6)

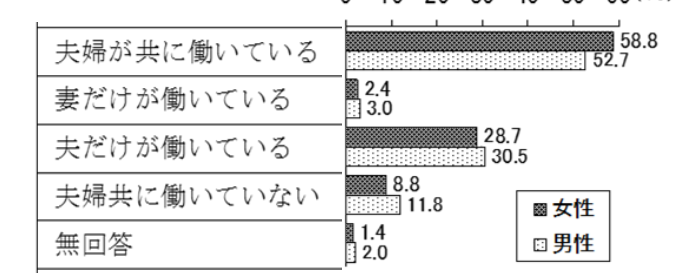


未婚は女性が4人に1人程度、男性が3人に1人程度となっている。

### ●結婚、出産・育児を理由とした退職経験の有無 (P.6)



### ●世帯の働き方 (P.7)

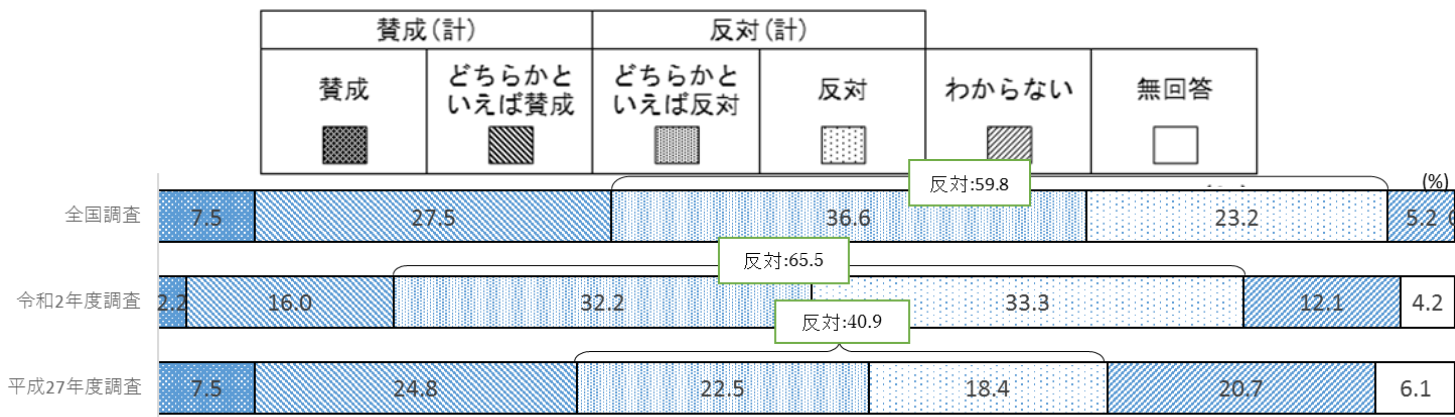


←退職経験のある女性は平成27年度調査よりも9.4ポイント増加している。

↑共働き世帯が過半数、夫だけが働いている世帯は3割程度となっている。

## Ⅲ 男女共同参画意識について

●問1 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどのように思いますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ) (P.17)



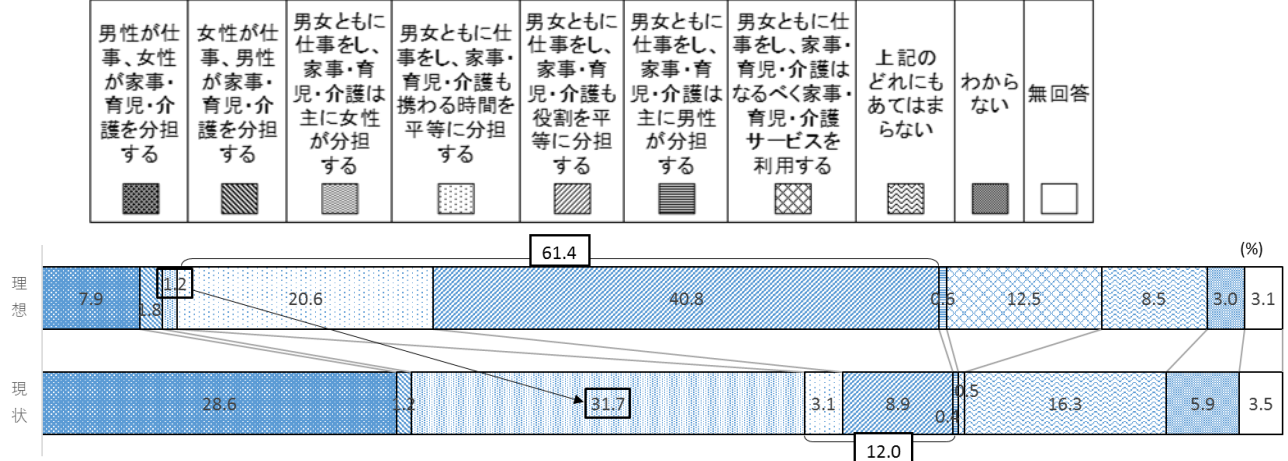
全国調査:内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(令和元年9月調査)



「反対」が平成27年度調査より24.6ポイント、全国調査よりも5.7ポイント高くなっている。

## Ⅳ 家事・育児・介護について

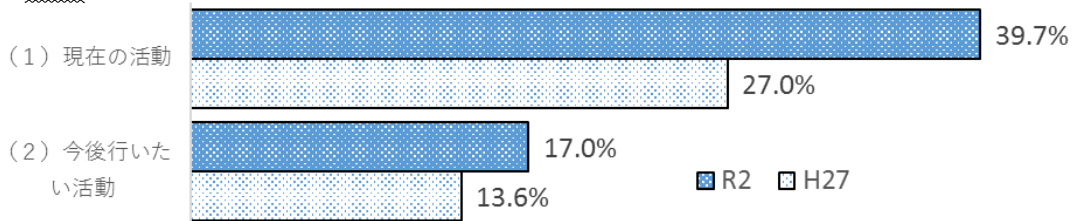
●問3 あなたのご家庭の家事・育児・介護の役割分担について、(1)理想、(2)現状にあてはまる番号それぞれ1つに○をつけてください。(○はそれぞれ1つ) (P.30)



理想では共に時間・役割を平等に分担することを61.4%の人が望んでいるが、現状では共働きでも家事・育児・介護は女性が担っている割合が高い(31.7%)。

## V 地域活動・防災について

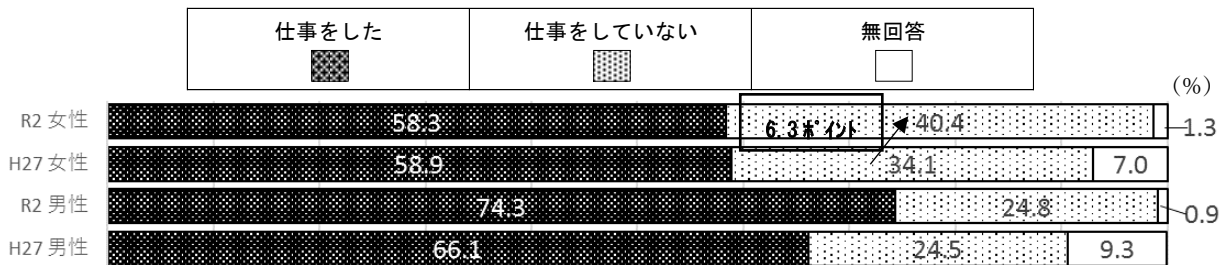
- 問6 地域活動について(1)現在の活動と、(2)今後の活動意向について、行っている(行いたい)活動はない回答の割合 (P.40)



「現在行っている地域活動がない」、「今後行いたい地域活動がない」回答者の割合が平成27年度調査よりそれぞれ12.7ポイント、3.4ポイント増加し、地域活動への参加は減少傾向となっている。

## VI 仕事について

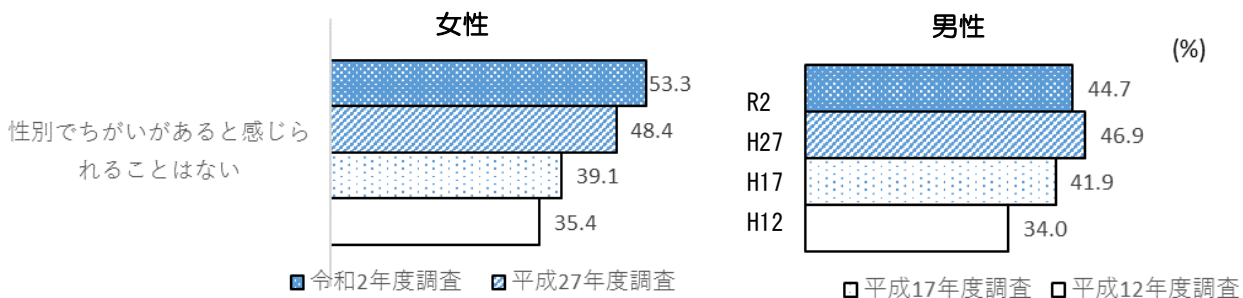
- 問9 あなたは、この1か月間で収入を得る仕事をしましたか。(〇は1つ)  
※産休、育休、介護休業中の方は「仕事をしました」に〇をつけてください。(P.52)



「仕事をしていない」状況は女性が平成27年度調査より6.3ポイント増加している。

- 【問9で「仕事をしました」と答えた方におたずねします】

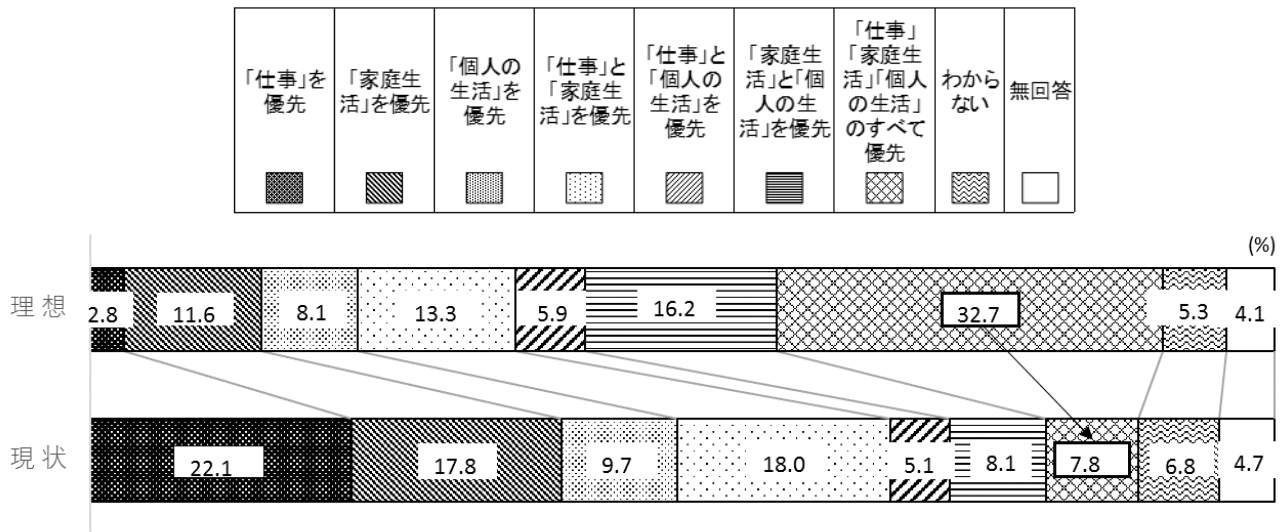
問9-1 あなたの職場では、仕事の内容や待遇面で、性別によりちがいがあると感じられることはない人の割合 (P.54)



職場にて「性別でちがいがあると感じられることはない」女性の割合は平成27年度調査より4.9ポイント増加し、男性では2.2ポイント減少となっている。

## Ⅶ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

- 問11 あなたの生活の中での、「仕事」「家庭生活」「個人の生活（地域活動、趣味・学習等）」の優先度について（1）あなたの理想に最も近い番号、（2）あなたの現状に最も近い番号1つに○をつけてください。（○はそれぞれ1つ）（P.68）

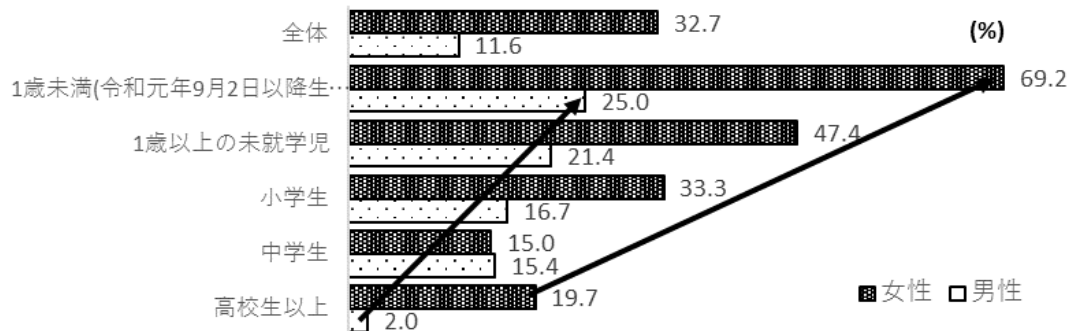


仕事と生活の調和について、理想では「仕事」「家庭生活」「個人の生活」のすべてを優先させたい人が32.7%で最も多いが、現状では「仕事」を優先させている人が22.1%で最も高く、続いて「仕事」と「家庭生活」を優先18.0%、「家庭生活」を優先させている人が17.8%となっている。

- 問13-2 あなたやあなたの配偶者が一番低年齢のお子さんを出産された時に、あなたは育児休業を取得しましたか。あてはまる番号1つに○をつけてください。（○は1つ）（P.75）

### 育児休業取得率

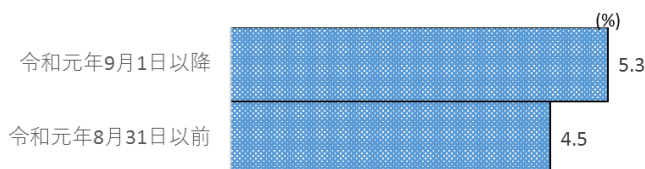
【参考】一番低年齢の子どもの成長段階別



子どもの成長段階別では、回答数が20に満たない子どもの年齢区分もあるため、あくまで参考値だが、子どもが低年齢である程、取得率が高く、育児休業の取得が進んでいる。

- 問15-3 あなたは、介護休業を取得したことがありますか。（○は1つ）（P.87）

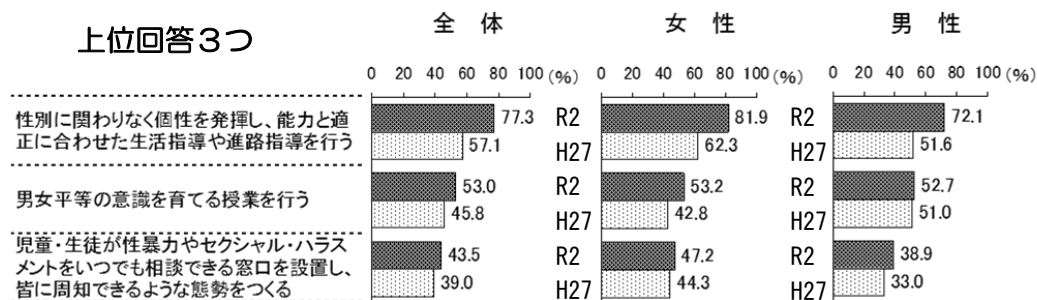
### 介護休業取得率



直近1年間の介護取得率はわずかであるが、それ以前よりも0.8ポイント上昇している。

## VIII 教育について

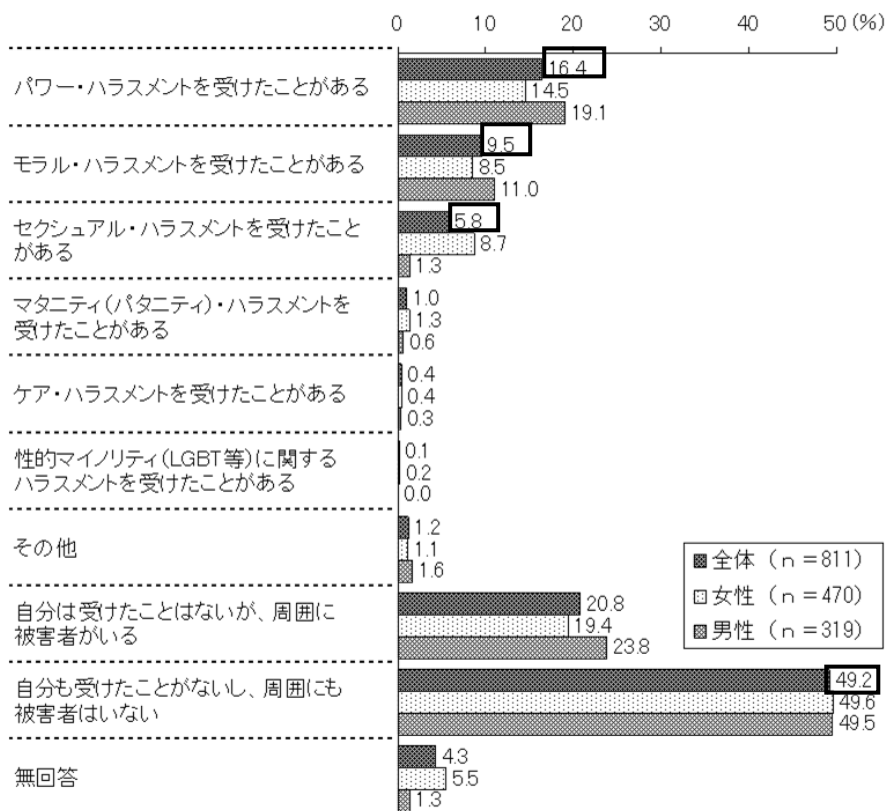
- 問16 学校（義務教育）で男女平等教育を進める上で、あなたが重要だと思うものは何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）（P.91）



男女平等教育を進める上で重要なこと、上位3つとも性別にかかわらず平成27年度調査より割合が高く、教育分野での取組の重要性の高まりがうかがえる。

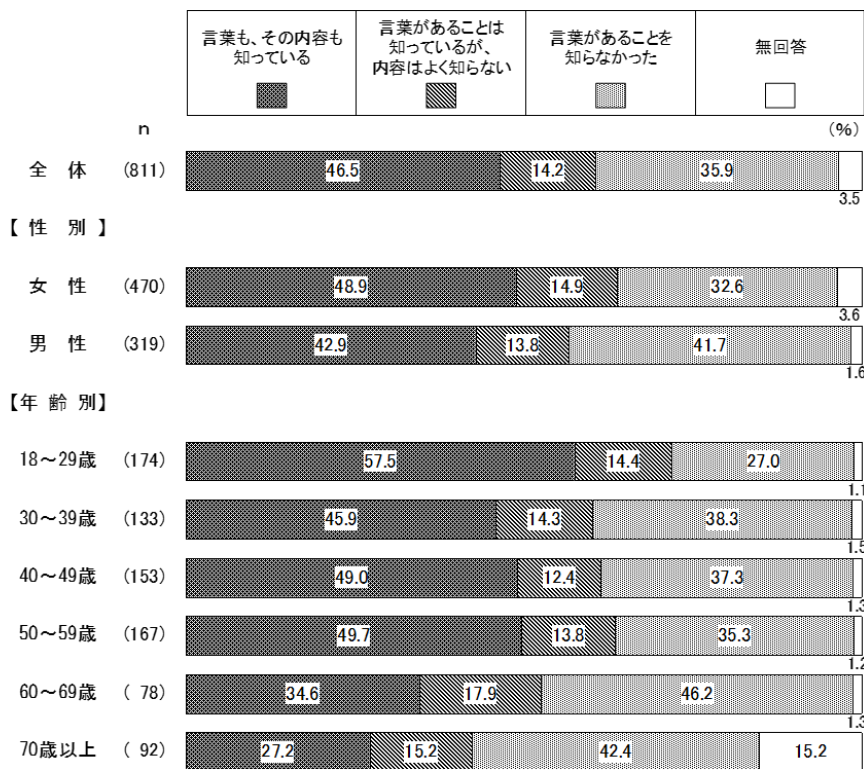
## IX 人権について

- 問17 あなたは過去5年間に、ハラスメントを受けた経験がありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）（P.95）



約半数が「自分も受けたことがないし、周囲にも被害者はいない」としている。受けたセクハラの中ではパワー・ハラスメントが一番多く、続いてモラル・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメントとなっている。

●問18 あなたは、「デートDV」(交際相手からの暴力)について知っていますか。(〇は1つ)(P.97)

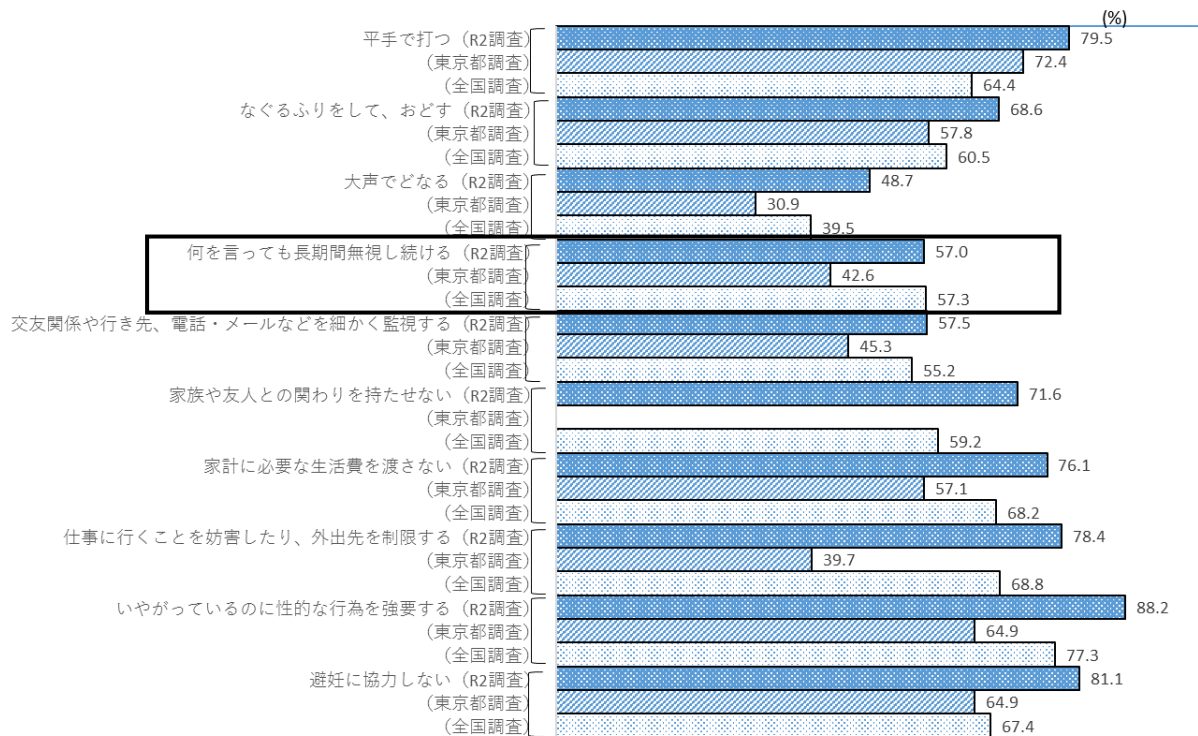


認知度は全体で46.5%の人が「言葉も、その内容も知っている」が、一方35.9%、約3分の1の人が「言葉があることを知らなかった」としている。  
 女性は48.9%、18～29歳の若い世代では57.5%が「言葉も、その内容も知っている」としており、認知度の高いものとなっている。

●問19 あなたは、次のようなことが配偶者や交際相手など親密な関係の間で行われた場合、それを暴力だと思いませんか。あなたの考えに近い番号1つに〇をつけてください。(〇はそれぞれ1つずつ)(P.98)

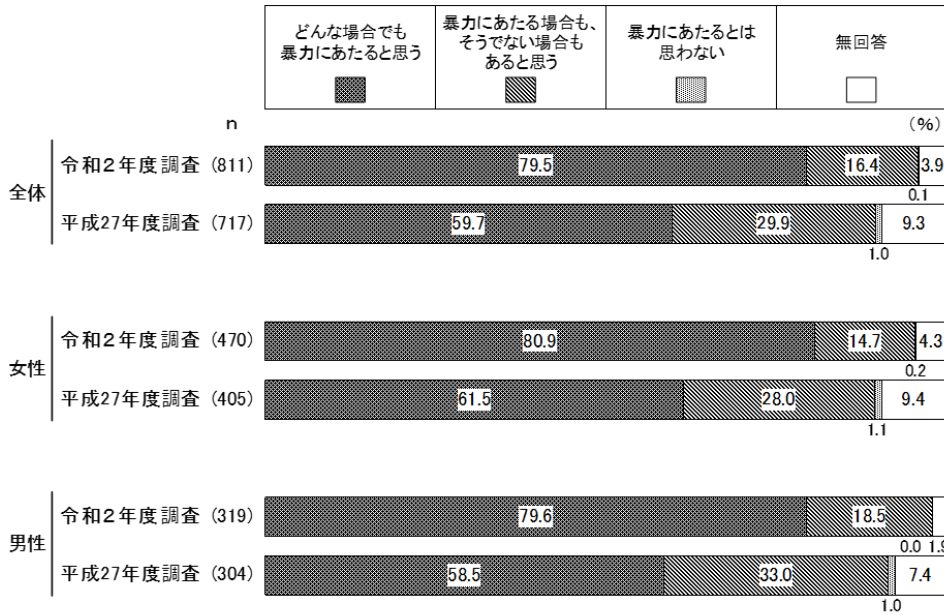
「どんな場合でも暴力にあたると思う」割合

東京都調査:東京都「男女平等参画に関する世論調査」(平成27年7月調査)  
 全国調査:内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(令和元年7月調査)



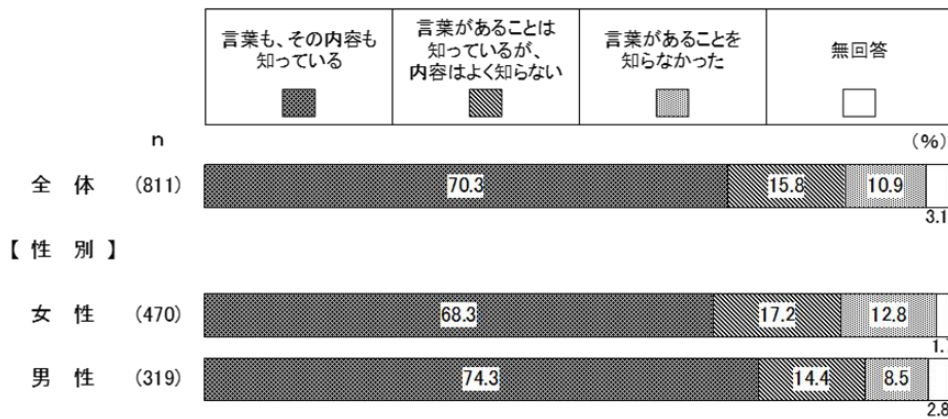
暴力の認識については「何を言っても長期間無視し続ける」を除いては、東京都調査、全国調査よりも全て高くなっている。

【平手で打つについて】(P.99)



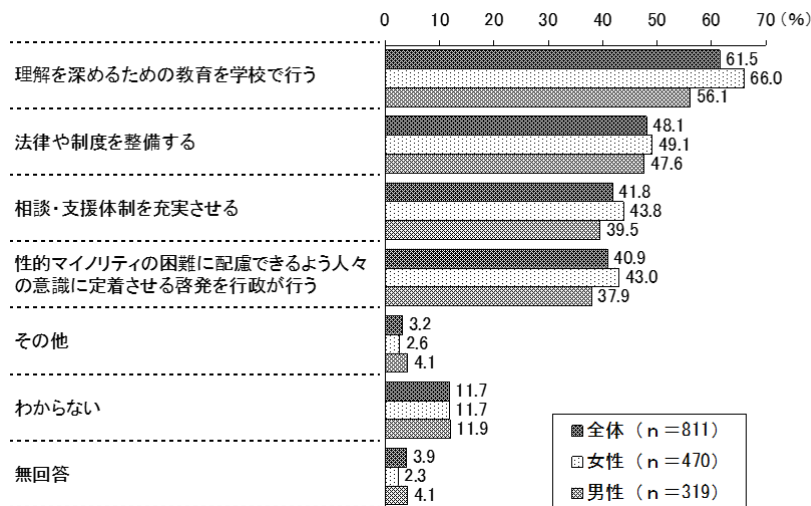
「平手で打つ」について、平成27年度調査よりどんな場合でも暴力にあたると思う割合が19.8ポイント高く、暴力についての認識が高まってきていることが推察される。

●問23 あなたは、性的マイノリティ(LGBT等)について知っていますか。(Oは1つ)(P.129)



全体では「言葉も、その内容も知っている」が70.3%、「言葉があることは知っているが、内容はよく知らない」は15.8%、「言葉があることを知らなかった」は10.9%となっており、7割の方に言葉、その内容が理解されている。「言葉も、その内容も知っている」は女性より男性の方が6.0ポイント高くなっており、男性に広く認知されている。

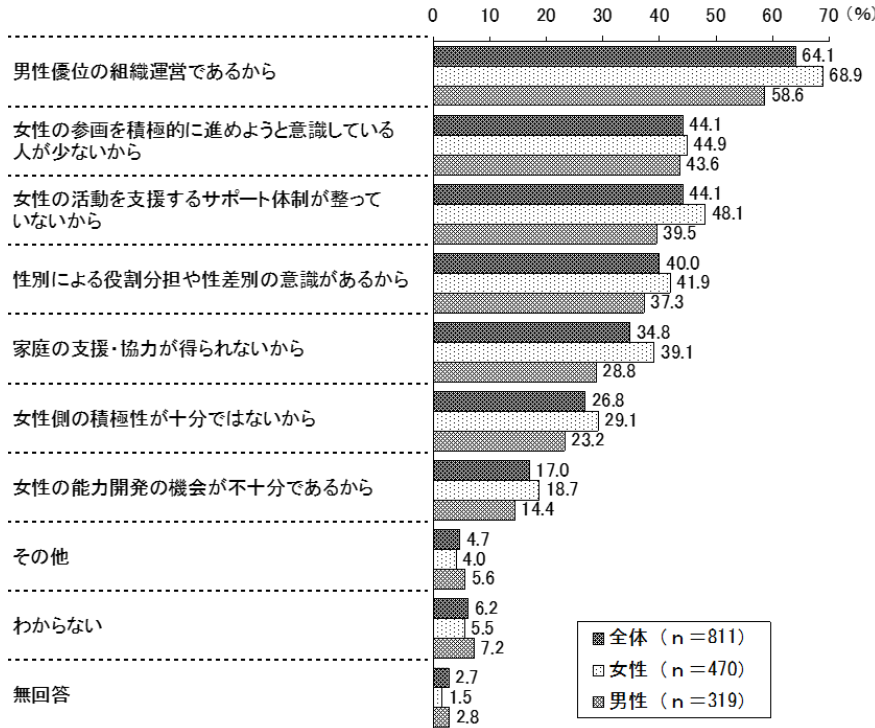
●問24 あなたは、性的マイノリティ(LGBT等)の人権を守るために、どのような対策が必要だと思いますか。あてはまる番号すべてにOをつけてください。(Oはいくつでも)(P.130)



性的マイノリティ(LGBT等)の人権を守るために必要な対策は「理解を深めるための教育を学校で行う」が61.5%で最も高く、次いで「法律や制度を整備する」(48.1%)、「相談・支援体制を充実させる」(41.8%)、「性的マイノリティの困難に配慮できるような人々の意識に定着させる啓発を行政が行う」(40.9%)となっている。

## X 女性活躍推進について

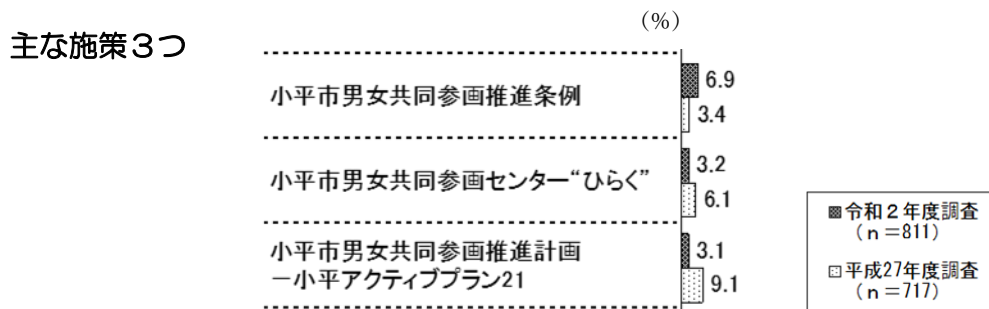
●問25 あなたは、政治や企業活動、地域活動など、あらゆる分野において、政策や方針の決定過程に女性の参画が少ない理由は何だと思えますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも) (P.132)



全体では、「男性優位の組織運営であるから」が64.1%で最も高く、次いで「女性の参画を積極的に進めようとしている人が少ないから」と「女性の活動を支援するサポート体制が整っていないから」がともに44.1%となっている。

## X I 小平市の男女共同参画に関する施策について

問26 あなたは、小平市で取り組んでいる下記にあげる男女共同参画施策を知っていますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも) (P.134)



小平市男女共同参画推進条例の認知度は平成27年度より3.5ポイント高くなっている。一方、男女共同参画センター“ひらく”、小平市男女共同参画推進計画の認知度はそれぞれ3.1ポイント、6.0ポイント低くなっている。

小平市 男女共同参画推進に関する市民意識調査報告書【概要版】

令和3年1月

小平市 地域振興部市民協働・男女参画推進課 〒187-8701 小平市小川町二丁目1333番地  
電話042 (346) 9618 (直通) Fax042 (346) 9575 メール kyodo-danjo@city.lg.jp